



平成31年3月15日

園長通信 増刊号

年長組保護者の皆様へ

「卒園おめでとうございます。」

園長 安達 譲
yuzuru@hijiri.ed.jp

明日は平成最後の卒園式

早いもので、とうとう明日は卒園式です。この1年、あるいは3年間の子どもの成長を心から嬉しく思います。ご家庭では様々なことで（特に年少の頃は）ご心配されることも多かったかと思いますが、子ども達の成長にはそのように自分のこと愛してくれる人（心配してくれる）人が必要です。保護者の皆さんのそのような愛情があってこそその成長かと思えます。「人類はどうして月まで辿り着くことができたのか？」という問いに対して、真面目に考えると「科学技術の進歩」という答えになりますが、お世話になっている臨床心理士の先生から以前聞いたお話によると心理学的には「帰る地球があったから。」だそうです。1歳を過ぎてよちよち歩きの子がたまに後ろを振り向いてママやパパ達の顔を振り返って、このまま行っていいかどうか確かめるような行動をすることがありますが、大きくなって自分のことを信じて見守ってもらえていることや帰る場所があることはとても大切だと思います。

明日の式では子どもたちに自分が愛されて育ったということを改めて感じてほしい、自分の命を大切にしてほしいと願って、いつも坪田譲治さんの「きつねとぶどう」の紙芝居を読ませていただいています。これから、子どもたちは、小学校での学習や地域等での活動を通じて様々なことを学び、最終的には、自分の好きなこと、得意なことを生かして人生を歩んでいくことになると思います。しかし、その過程で自信が揺らいだ時やとても困難な状況にあるときには自分の存在を認めてもらえる存在や愛された実感が必要です。本当に立派に成長した子ども達ですが、いましばらく子ども達に暖かな眼差しを送り続けていただければと存じます。

先日の日曜日に高校3年生の卒園生の子が2人、園を訪ねてきてくれました。2人は園のあちこちを回りながら「この場所おんなじ！」と嬉しそうに話していました。きっと高校卒業を控えて色んなことを考えたり迷ったりしたのかもしれない。園を巣立って行った全ての子ども達にとって、幼稚園は子ども達が大きくなった時にちょっと立ち寄りたい場所、楽しかった頃の事を思い出して元気になれる場所で有り続けたいと思います。

最後になりますが、お子さんの入園以来、PTA活動をはじめ、様々な形で、園を支えていただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。学年懇談でもお話しさせて頂きましたように、卒園されましてもこのご縁はずっと続くものですので、子育てで嬉しかった時や悩んだ時に園来ていただければ幸いです。ずっと子ども達の幸せをみんなでお祈りしています。